

6年●組 学級活動学習指導案

授業者 ●● ●●

1 取り上げる人権課題 「女性」 2 取り上げた人権課題の背景と現状

女性に対する差別の問題は、1979年に国連総会において「女性差別撤廃条約」が採択されて以来、国際的に男女共同参画の動きが一気に高まってきた。国内においても、1985年に男女雇用機会均等法、1999年に男女共同参画社会基本法が制定され、性別に関わらず、個人の個性と能力を十分に発揮することができる社会をつくることが求められている。しかし、現状では男女間の不平等を感じる人も多く、差別の解消や格差是正には至っていない。その背景には、育児と仕事を両立できる環境が不十分であることや管理職や専門職に就いている女性の割合が低いことなどの要因がある。

岐阜市では、第2次岐阜市男女共同参画基本計画の基本目標Ⅱにおいて、男女平等観に立った教育の充実を規定している。児童が学校生活の中で、社会に根強く残っている固定的な性別役割分業観を払拭し、性別にとらわれず一人一人がそれぞれの能力を発揮しようとする態度を育てていきたい。

3 児童の実態

【アンケート調査等からみた本学級の実態】

ジェンダーチェック アンケート	男子 (%)	女子 (%)	全体 (%)
・やっぱり男は男らしく、女は女らしい方がいい。	41.1%	13.3%	28.1%
・男性は仕事をして、女性は家事や育児をすべき。	35.2%	26.6%	31.2%
・結婚して子供が生まれたら、女性は仕事をやめた方がいい。	70.5%	20.0%	46.8%
・結婚したら男女が協力して家事や育児をした方がいい。	88.2%	80.0%	84.3%

児童の多くは、将来に対して夢を抱き、明るい展望をもっている。また、これまでの学習や生活を通して、女性も男性も仕事と家事の両方に責任をもちながら生きていくことが大切だと理解している児童も多い。しかし、上記のアンケート結果のように、実際の職場や男女の働き方について具体的に想像できていないにも関わらず、性別にとらわれた職業意識や固定的な性別役割分業観をもっている児童もいる。

将来、性別にとらわれず、個人の能力を生かすことができる社会の担い手に育てるために、男女が共に相手の考えを理解し合いながら生活することの大切さについて考えようとする意識を高めたい。

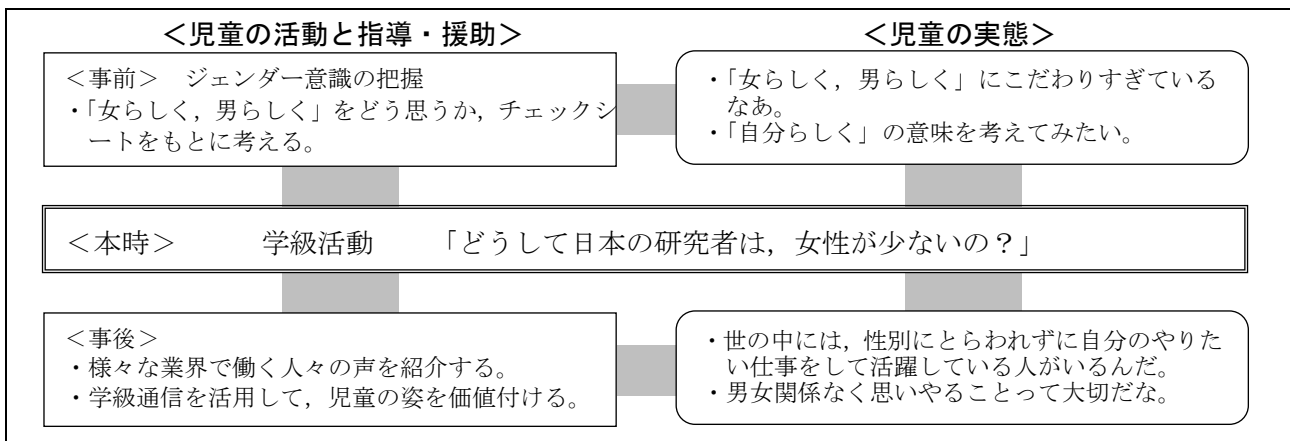
4 人権教育の育てたい3つの力の明確化

認識力	「男は仕事、女は家庭」といったような性別にとらわれた職業意識や固定的な性別役割分業観があることに気付く力
-----	------------------------------------------------------

【指導改善の手立て】

- ・日本の研究者に占める女性の割合が低いという実態を知り、性別にとらわれた職業意識があることに目を向けさせる。
- ・日本の研究者に占める女性の割合が低い理由について、男女混成のグループで追究する。
- ・研究と家事・育児を両立することができていない現状の背景には性別にとらわれた職業意識や固定的な性別役割分業観があることに気付かせるために、どうして家事や育児参加は、男性よりも女性の方が多いかと問う。
- ・性別にとらわれた職業意識や固定的な性別役割分業観があることを知り、自分が大切にしていきたいことを考えることを通して、性別にとらわれずに自分の力を生かそうとしたり、相手の考えを理解し合いながら生活したりしていくことの大切さに気付くことができるようにする。

5 事前・本時・事後の指導構想



6 本時の目標

日本の研究者に占める女性割合が低い理由について、どうして日本の研究者は女性が少ないのかという視点で仲間と交流しながら調べる活動を通して、研究と家事・育児を両立することができていない現状の背景には固定的な性別役割分業観があるということに気付くことができる。

7 本時の展開

過程	主な学習活動	見届ける視点(◇)と指導・援助
つかむ	<p>1 「19/668」(※文学賞と平和賞を除く)が何を表した数字なのか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 何を表した数字なのか分からない。 ノーベル賞を受賞した研究者の数ということは、19は女性のことだと思う。 <p>→何となく女性は少ないと思った。研究者は男性が多いイメージだから。</p> <p>2 日本における女性研究者数や全体に占める女性の割合について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2016年には女性の研究者は、過去最高になったんだ。 でも、世界の中で見ると、日本の女性の研究者は少ないぞ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>どうして、日本の研究者は女性が少ないのだろう。</p> </div> <p>3 課題に対する予想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 育児や家事と両立するのが難しいから。 研究者は、男性の仕事というイメージがあるから。 	<p>◇女性研究者の割合が低いことを当たり前のよう考えていることに目を向けているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「19/668」について、「ノーベル賞を受賞した研究者」というヒントを提示し、その意味を「女性」と捉えた場合、どうして女性と考えたのか問い返すことで、研究者には女性が少ないことに目を向けさせる。 日本の研究者に占める女性の割合が低いという資料提示をすることで、課題意識をもたせる。(つぶやき・発言内容等)
学び合う	<p>4 研究者Nさんの話や女性研究者の実態をもとに追究し、仲間と交流する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>③Nさんの話</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究者のAさんは研究者としての仕事にやりがいを感じていたんだ。 仕事をやめることに後悔はないと言っているけど、やっぱり当時は迷いがあったんだ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>④育児や家事をする時間</p> <ul style="list-style-type: none"> 男性よりも女性の方が育児や家事をする時間が長いんだ。 同じ研究者なのに、育児や家事をする時間がちがすぎるのはおかしいと思う。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>⑤女性研究者の子供の人数</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性の研究者は、66%の人が子供がいないんだ。 理想の子供の人数と実際の子供の人数では全くかけ離れているぞ。 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Nさんは自分の選択に納得しているけど、子供の人数の理想と現実には差があるし、同じ研究者という立場なのに育児や家事の時間が女性ばかりに偏っている状況があるから日本の研究者は女性が少ないのだと思う。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>男性よりも女性の方が家事や育児をしているのは、心のどこかに男性が働いて、女性が家事や育児をするという意識があるからだ。</p> </div>	<p>◇グループ追究を通して、多くの場合、女性が仕事と育児・家事を両立していることを読み取り、両立することに難しさがあることに気付いているか。</p> <p>◇男子と女子の考え方のちがいを受け止め、話し合いを進めているか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【人権教育の観点】</p> <p>固定的性別役割分業観を払拭し、性別にとらわれず一人一人がそれぞれの能力を発揮しようとする態度を育てる。(認識力)</p> <p><そのための手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事と家事・育児を両立することができていない現状の背景には、性別にとらわれた職業意識や固定的な性別役割分業観があることに気付かせるために、資料④の内容から「どうして家事や育児参加は、男性よりも女性の方が多いか」と問う。 </div>
確かにすることができる	<p>5 岐阜大学男女共同参画推進室の方の話</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>みなさんは、女性の差別ということを日常生活では感じないと思います。なぜなら、それは実際に就職して世の中に出ないと分からないことだからです。私は、12歳のみなさんにも、世の中にはまだに「男は仕事、女は家庭」という考え方があることを知ってほしいと思っています。</p> </div> <p>6 国語科「未来がよりよくあるために」の学習で作成した児童の意見文を紹介し、自分の考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>今はまだ分からないかもしれないけど、女性が働く上で差別されるかもしれないということが分かった。男性だけが仕事をして、女性だけが育児や家事をしなければいけないという考え方ではなく、自分がやりたいこととするという考え方を大切にしていきたいです。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】</p> <p>◇日本の女性研究者が少ない理由について、仕事と家事・育児を両立することができていないという現状の背景には固定的な性別役割分業観があることに気付くことができる。(記述内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の生き方について考えている姿を価値付ける。 </div>